

CentreCOM® RH609 リリースノート

この度は、CentreCOM RH609 をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 1.1PL5

2 本バージョンで修正された項目

本バージョンでは、前バージョン(1.1PL4)から、下記の項目が修正されました。

- 2.1 SNMP RFC1213 MIB オブジェクト[SystemUpTime]の値が正しく表示されない場合がありますが、これを修正しました。

3 注意事項

3.1 ソフトウェアダウンロードについてのご注意

- 該当箇所 p6-33 【US: 他 Hub へのアップデート SOFTWARE の転送】
p6-34 【UA: すべての Hub へのアップデート SOFTWARE の転送】
p6-35 【UR: シリアルポートによる SOFTWARE のアップデート】

ソフトウェアのダウンロード中は、必ず下記の注意をお守りください。

**通信ケーブルを抜かないでください。
ダウンロード元、ダウンロード先の機器のいずれも電源を切らないでください。**

ダウンロードは正常に終了しますと、「ロード完了」のメッセージが画面に表示されます。
万が一、通信ケーブルが抜ける、ダウンロード元、ダウンロード先の機器の電源が切れるなどの通信異常が発生し、正常に起動ができない場合はダウンロードをやり直す必要があります。
その場合は、後述の「3.2 ソフトウェア異常検出時のご注意」をご参照の上、再度ダウンロードを行ってください。

「UR: シリアルポートによる SOFTWARE のアップデート」メニューは、Telnet を使用したネットワーク経由で本製品に接続した場合、管理メニューに表示されません。

コンソールポートを使用して本製品に接続する場合は、Windows® 3.1/95/98、およびWindows NT® の標準通信ソフト「ターミナル/ハイパーターミナル」をご使用になることをお勧めします。

3.2 ソフトウェア異常検出時のご注意

該当箇所 p6-35【UR: シリアルポートによる SOFTWARE のアップデート】

電源投入時にソフトウェアの異常が検出されると、すべてのLEDが点灯します。

この際、コンソールポートに端末を接続し、通常の手順でソフトウェアの起動を行うと、「システムユーティリティ」が起動します。画面の指示に従ってソフトウェアのダウンロードを行ってください。(表示されるメニューは英語表記のみとなります。)

3.3 スタック電源投入時のLED表示についてのご注意

該当箇所 p2-7【2.4 スタック接続】

p3-4【3.2.1 電源投入時のLED表示】

本製品をスタック接続して使用する場合は、マニュアルの記述どおり、先にスレーブモジュールの電源を入れてから、最後にマスターモジュールの電源を入れてください。

スレーブモジュールに電源を入れた時点(マスターモジュールに電源を入れる前)では、スレーブモジュールのLED表示にばらつきがあり、必ずしもp3-4「3.2.1 電源投入時のLED表示」に記載されているような経過を示しませんが、故障ではありませんのでご了承ください。

3.4 ケーブルの極性についてのご注意、ならびに訂正

本製品のポートに誤った極性のケーブルが接続された場合、「ポートステータス」メニューの「ポート設定」メニューで「N: 極性修正を行わない」が選択されていると、極性の検出、および自動修正が行われず、そのポートは通信ができなくなりますのでご注意ください。

「ポート設定」メニューの「極性(RX)」の項目は、「P: 極性修正を行う」に設定することをお勧めします。(デフォルトは「P: 極性修正を行う」となっています。)

なお、上記内容についてマニュアルの記載内容に一部誤りがありましたので、お詫びして以下のように訂正いたします。

該当箇所 p6-5【「極性」】

- Ⓔ 『「極性」の項目は、各UTPポートの受信ペア極性の状態をNormal/Reversed/Correctedのいずれかで示します。』
- Ⓕ 『「極性」の項目は、各UTPポートの受信ペア極性の状態をNormal/Correctedのいずれかで示します。』
- Ⓖ ~~Ⓔ~~ 『Reversedは極性が誤っていることを示します。この場合は、「ポート設定」メニューで「極性を行わない」オプションが選択されているため、極性が誤っていても修正されません。』

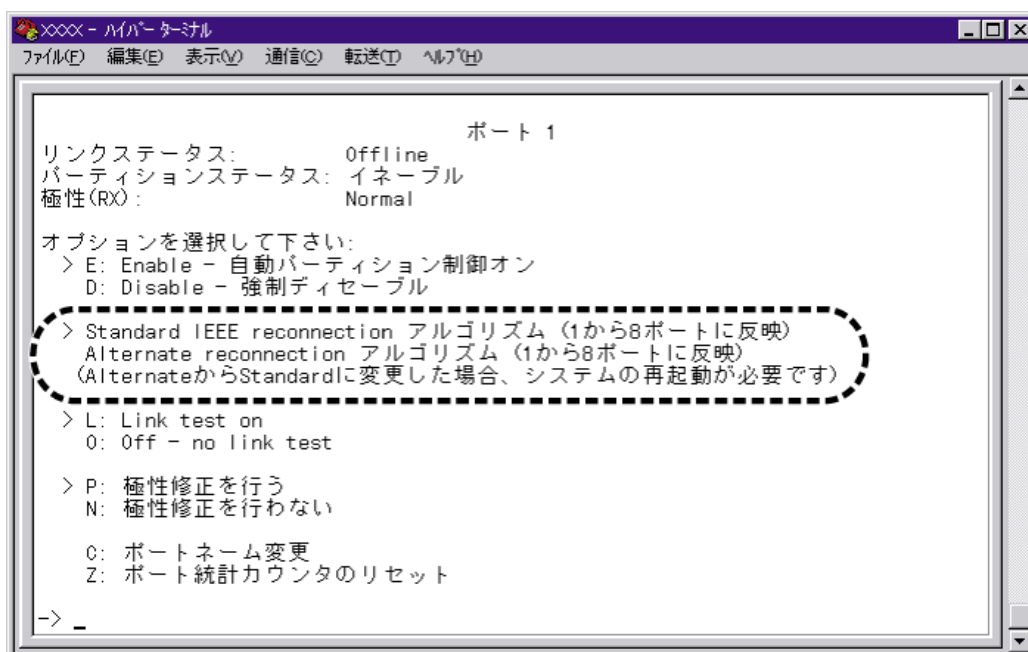
該当箇所 p6-7【 極性(RX)】

- Ⓔ 『「極性(RX)」は、前メニューの「極性」の項目と同じで、Normal/Reversed/Correctedで表示されます。』
- Ⓕ 『「極性(RX)」は、前メニューの「極性」の項目と同じで、Normal/Correctedで表示されます。』

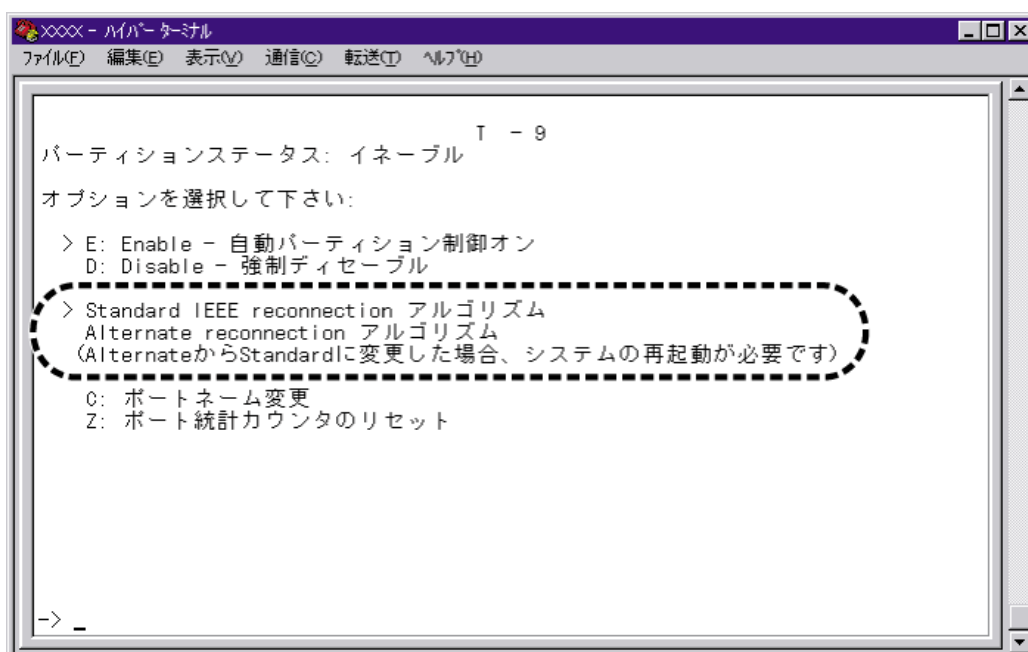
3.5 ポートの再接続機能についてのご注意、ならびに訂正

該当箇所 p6-7【 再接続】

ソフトウェアバージョン 1.1PL2 から 1.1PL3 へのバージョンアップにおいて、「ポートステータス」メニューの「ポート設定」メニュー画面、「再接続」オプションの内容が一部変更されました。



ポート 1 を選択した場合



ポート 9-T を選択した場合

再接続の設定を「Alternate reconnection アルゴリズム」から「Standard IEEE reconnection アルゴリズム」に変更する場合は、システムを再起動する必要がありますのでご注意ください。

なお、上記内容についてマニュアルの記載内容に一部誤り、および変更がありますので、お詫びして以下のように訂正いたします。

- ⑧ 「Alternate reconnection アルゴリズム」を選択している場合は、パーティションされたポートで、コリジョンが発生することなく512ビットのデータを受信したときのみEnabledに自動設定されます。
どちらを選択した場合も、設定はモジュールのすべてのポートに適用されます。

- ⑨ 「Alternate reconnection アルゴリズム」を選択している場合は、パーティションされたポートで、コリジョンが発生することなく512ビットのデータを送信したときのみEnabledに自動設定されます。
設定は、ポート1～8のメニュー画面で選択した場合はポート1～8に、ポート9(9-T/9-A)のメニュー画面で選択した場合はポート9のみに反映されます。